

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000606		
法人名	社会福祉法人ノマド福祉会		
事業所名	グループホームはる (こでまり)		
所在地	小樽市赤岩2丁目21-12		
自己評価作成日	平成25年10月11日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・婦人部活動(炊き出し、会合、お茶会、フラワーアレンジメントなど)を行い、生き生きと生活している。</li> <li>・小学生の介護体験教室などの世代間交流で、地域子ども達とふれあう機会が多い。</li> <li>・地域の方々や家族と一緒に、楽しめる行事を行うことで、施設の特徴や様子をしてもらい、また入居者の方々も楽しみのある暮らしを支援していること。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0172000606-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0172000606-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、特養ホームなど多数の高齢者支援事業を展開している法人の確立された組織運営体制によって職員も利用者へのケアサービスに専念できる安定した職場環境にあります。このため、職員は運営法人及びホームの理念を理解し、利用者一人ひとりに寄り添ったケアサービスに努めています。ホーム内は暖かい雰囲気と笑顔があり、家族も利用者の暮らしに安心し、感謝しています。バス停や店舗が周辺にあって生活の利便性に富んだ場所に位置しているホームは、同一敷地内にある法人運営の福祉サービス事業所と連携して地域との連携に積極的に取り組んでいます。地域の行事参加や事業所主催の夏祭り及び盆踊りへの住民参加、公開講座の開催、隣接保育園との頻繁な交流など地域との一体感があります。ホームの建物は、居間兼食堂などの共有スペースや居室など内部全体が広くゆとりがあって暮らしやすく、広いベランダ設置などで災害対策にも安心出来る構造です。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念があり、理念に沿ってケアの実践につなげている。一人ひとりの思いを大切に支援して思い支援している。	「ホスピスケア」と「コミュニティケア」の法人共通理念と「一人ひとりに寄り添った支援」のホーム理念を持ち、職員はこの理念を理解して共有しながら日々の利用者へのケアサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に保育所があり、園児と交流、ボランティアの来訪、町会の子供会（はるキッズ）、盆踊りの行事などを通じて交流している。	ホームは、敷地内の福祉サービス事業所と連携して夏祭りや盆踊りの開催、町内子供会や隣接保育所との交流、公開講座の開催など日常的な交流があり、地域と一体感のある存在です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	世代間交流にて、町会の子供会（はるキッズ）に、介護体験教室を開催したり、地域の会合の場に参加し、活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業の計画や報告、外部評価及び自己評価の報告、消防訓練への参加などから、様々な意見、アドバイスを頂き、次のサービスにつなげている。会議録は、廊下にて閲覧している。	運営推進会議は、利用者家族、町内会長、民生委員、ボランティアなど多数の参加者によって災害対策や運営上の意見交換をしています。会議の意見等から敷地内に「あずまや」を設置して地域住民にも利用してもらうなどサービス向上に活かしています。	ホーム運営に協力を頂くため、利用者家族に運営推進会議についての理解と家族の会議参加などの要請を含めて全家族へ会議議事録の送付について検討することを望みます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告や必要時に、適宜連絡している。	管理者は、各種書類提出時に行政窓口を訪問したり、相談事項なども随時、電話等で連絡を取っています。また、小樽市グループホーム連絡会に行政職員も参加しており、これらを通じて行政との協力関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内またグループホーム内に委員会を設置しており、事例検討などを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間は勤務者一人となるため、安全の意味で施錠している。	人材育成に重点を置く法人内の研修で身体拘束防止関連事項を取り上げており、外部研修へも参加しています。ホーム内にも身体拘束廃止委員会を定期的に開催して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。正面玄関及びユニット入り口は夜間のみ施錠で、ユニット入り口はチャイムで出入りが分かるようになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内またグループホーム内に委員会が設置されており、マニュアルが作成されている。また、研修や学習会などに参加し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を開催し、学び、理解に努めている。直接的に実践の機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の訪問の際に、本人・家族と話し合い、説明をし理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。また日々の関わりの中からも、家族の意見を聞くことができている。運営推進会議にて、意見を反映している。	ホームへ来訪の家族は、その都度、職員と話し合いをしています。また、毎月発行のホーム便りや隔月毎に郵送している利用者一人ひとりの様子を伝える「お便り」で家族に感謝されています。家族からの要望等は管理者や職員が検討しながら運営に反映させるよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者である理事長は、1ヶ月に1回、法人内研修にて、職員の意見を聞き、働きやすい職場作りに取り組んでいる。管理者は日々の関わり、またグループホーム会議や個人面談で把握し、個々の目標に向け支援している。また重度化に伴い、人員配置など検討している。	毎月開催の法人内研修に法人代表者も出席して職員と話し合う機会があります。さらに、管理者と介護主任は職員と個人面談を実施して職員からの意見や要望を聞き、ホーム運営に反映させるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算については、勤務形態や勤務年数で、支給額が違い、向上心が持てるように努めている。また正職員試験なども行い、それぞれキャリアが、つんでいけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、職種や経験年数別にて、毎月開催している。また、協議会等に参加し、積極的に施設外の研修に参加できる機会を作っている。また、グループホームでは、学習会も開催し、専門性を高めることができるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、小樽市グループホーム協議会等の役員をしており、他グループホームとの交流はある。また協議会の取り組みである相互訪問研修に参加し、職員も他事業所との交流になっている。しかし、今年度は訪問できていないが、他事業所からは来訪している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャー等の情報を基に把握に努め、安心できるような声掛け、困っていることに耳を傾け、関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の際、面談を通してニーズを把握し、要望を取り入れて、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報、現在の生活の中から、判断し、必要に応じたケアの取り組みを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを見極めて、一緒に家事を行ったり、レクなどを通して、共に楽しめるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に温泉などの行事に参加したり、来訪時には、ゆっくりと過ごせる環境づくりを行い、入居者を交えて、話をするなど行っている。入居者と家族の関係性を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの居室には、写真やなじみの置物など、いつでもみられるようにしている。思い出話や外出時には、なじみの場所に立ち寄るなどしている。時に、テレビで、故郷が出た際には、一緒に見ながら、住んでいたころのお話をしている。	利用者と職員は、昔の生活などの話をしたり、希望によって以前住んでいた住宅や美容室など馴染みの場所への外出を支援しています。利用者への訪問者には、居心地よく過ごして頂けるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の状況や関係性を把握し、孤立しないように、席を工夫したり、橋渡しをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、家族と連絡を取り、関係性が継続できる体制はできている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に意向の確認を行ったり、日々の中では本人の話をよく聞くようにしている。カンファレンスで話し合い、ケアプランに反映させている。	職員は、日常のケアサービスから利用者の思いや意向を把握しています。また、家族からの情報を参考にしたり、カンファレンスで相談しながら本人本位のケアに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報や本人の言葉、家族からの情報などから、以前の生活と変わらないよう対応し、本人や家族に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムがありさりげなく見守り、一人ひとりの1日の過ごし方を考えている。個々に合わせ、状況に合わせて対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意向を聞き、カンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。	利用者の状況を詳細にモニタリングしながらカンファレンスで協議し、事前に家族や医療機関とも相談を行い、3～6ヵ月毎に利用者の状態に即したケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は、介護ソフトにてパソコン管理し、日常の様子や会話など記録し、情報を共有している。また、連絡ノートを活用し、必要なことは周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化する体調や行動に合わせて、その時その時必要なことを考え対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力を得ている。保育所や小中学校、町会と交流している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関にて、受診や往診で、体調管理を行っている。本人や家族の希望を大切にしている。	複数の協力医療機関が毎週又は隔週毎に担当する利用者診療のためホームを訪れています。外部医療機関受診の際には、家族又は職員が付き添い支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤であり、日々入居者の状況を報告し、適切な対応を行っている。 新人の職員は、知識や経験不足で、気づきができていないことがある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護師が中心に、病状や日々の生活を伝えている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに合わせ、家族、医師と話し合い、カンファランスで情報を共有し、統一したケアができるようにしている。最期まで穏やかに過ごせるよう話し合っている。	重度化や看取りについて、入居時に指針を説明して同意書を頂いています。また、利用者の状態変化に応じて再度、家族や医療機関と看取り又は医療機関へ移行などを相談しています。看護職員も在職しているため、家族にも安心感があります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルが作成されている。応急手当など、学習会で学んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼・夜の避難訓練を、地域住民にも協力を得て、実施している。月1回自主点検を行っている。	消防署の指導を受けて年2回の避難訓練を実施し、住民も参加協力しています。内部には火災報知器等各種の設備を設置しており、災害に備えて備蓄品も用意しています。また、外に出やすいベランダや中庭が有るため避難に便利な建物構造です。	ホームは、火災等の災害対策に備えていますが、自然災害の場合は想定外の事態発生も考えられます。このため、自然災害対策についてさらに十分な対応策の検討を期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならないよう、またプライバシーに配慮し、関わっている。(例えば、排泄などの声掛けは、周りの人には聞こえないよう声掛けを行っている。)しかし、時に配慮にかけてしまうことがある。	利用者の人格尊重とプライバシーを損ねないよう学習会で学んだり、ジェスチャーを工夫しながらケアサービスに努めています。各種個人記録なども適正に管理されています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状により、表現しにくい方もいるが、状況や行動を見て、本人の思いを理解するよう努めている。また、入居者が話しやすい雰囲気作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的にならないよう、本人のペースを大切にする支援に努めているが、全ての希望にそえず、職員の都合になってしまうこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服装ができるよう、一緒に選び、その人らしさを支援している。外出時にはお化粧をし、楽しんでもらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備、米とぎ、盛り付け、後片付けなど個々の能力に合わせて、一緒に行っている。	一部の利用者は、食事準備や後片付けを手伝い、職員と一緒に食事をとりながら和やかに過ごしています。利用者の誕生日や季節行事には別献立の食事があり、さらに、すし祭りや外食など変化のある食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を確認し、また栄養状態や嚥下などの状況に合わせて、ミキサー食や刻み食の提供、トロミ材の使用、栄養補助食品やおやつなど取り入れている。個々の食べる量が違うので、盛り付け方やバランスに配慮し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。うがいの困難方は、口腔用ウエットティッシュを使用し、清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を分析し、尿パットの使用及び種類などを検討している。2人介助で排泄をしている方は、夜間のみ、やむを得ず、テープ止め（紙おむつ）を使用している。	利用者の排泄パターンを記録して把握し、出来るだけおむつ等の使用を最小限にして、利用者に適合した下着着用を考えながら、声かけ誘導でトイレ排泄を行う支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖、玄米黒豆茶、十六雑穀などや野菜、海藻を多く、取り入れている。水分にも気を付けている。毎日フレディエクササイズを行い、運動にも気を付けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決まっているが、その日の状況や本人の気分に合わせ、対応している。	利用者の入浴は、週2回以上を目標として実施しています。また、利用者の体調や希望も反映させて無理に入浴を行わず、日時を変えるなど柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣（明かりがあると眠れないので足元灯を設置など）や就寝時間に合わせ対応し、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方内容があるが、詳しくは理解できていない。変更があった際には、看護師から説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などの役割があったり、散歩やユニット行事などで楽しみ、喜びのある生活になるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出したり、柔軟な対応を行っているが、全てではない。季節毎に外出している。	利用者は、ホーム周辺の散歩やお店での買い物、敷地内のあづまやでくつろいでいます。また、車両を利用して紅葉狩りや展望台見学、外食などボランティアの協力を得ながら外出を頻繁に実施して変化のある暮らしを楽しんで頂くよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し、自ら使用している方は1名いる。お金を持っていることで、安心している方もいる。それぞれの能力に合わせ、見守っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方はいない。電話を設置しているが、ほとんど使用していない方がいる。かけたいと希望される方には、使用できるようにし、話がうまく話せないときは取り次いでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を確認し、窓を開けたり、カーテンで遮光したりと調整している。楽しめるよう、夏には野菜や花を植えている。行事の写真など飾っている。	ユニット玄関、居間兼食堂、4カ所のトイレ、浴室などすべて余裕のある広さでゆったりとしています。特に、居間兼食堂はスペースが広いため両者が分離されて落ち着いて食事ができ、大きな開口部で明るくて眺望も優れています。ホーム内随所に絵画、手作り作品、写真などがバランス良く飾られ、落ち着いた雰囲気の中で利用者は居心地良く過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で、気の合う仲間と過ごせるようソファの位置など工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活スタイルに合わせて、家族と相談し、なじんだ家具や仏壇を持ってきている。また、好きな小物など飾っている。	居室スペースは約8畳と広く、安全なパネルヒーターと洗面台が設置されています。利用者は、馴染みの家具類やテレビなどを自由に持ち込み、壁面を写真や作品など好みに飾りながらゆったりと暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関以外はバリアフリー、手すりなどが設置されている。			